

船舶事故調査報告書

平成23年7月28日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行
 委員 根本 美 奈

事故種類	衝突（消波ブロック）
発生日時	平成23年3月18日 23時00分ごろ
発生場所	北海道根室市花咲港東外防波堤中央部付近 （概位 北緯43° 16.4′ 東経145° 35.2′）
事故調査の経過	平成23年3月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第三十一 ^{こうえい} 宏榮丸、6.1トン HK2-23222（漁船登録番号）、個人所有 12.09m（Lr）×3.13m×0.95m、FRP ディーゼル機関、540kW（漁船法馬力数）、平成11年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 44歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和61年4月4日 免許証交付日 平成23年2月2日 （平成28年4月3日まで有効）
死傷者等	負傷 1人（船長）
損傷	全損（船首部損壊）
事故の経過	<p>本船は、船長及び甲板員3人が乗り組み、花咲港南東方沖20海里（M）付近においてサメガレイ刺網漁の操業を終え、自動操舵により、対地速力約18ノットで同港に向けて北西進していた。</p> <p>船長は、操舵室内の椅子に腰掛けて単独で船橋当直に就き、花咲港南東方3M付近の暗岩の東方0.5M付近において、左舷方に変針して針路を花咲港へ向け、3Mレンジとしていたレーダーで花咲港からの出航船がないことを確認した。</p> <p>船長は、入港後の仕事の段取り等を考えているうち、居眠りに陥った。</p> <p>本船は、平成23年3月18日23時00分ごろ、花咲港の東外防波堤中央部（以下「本件防波堤」という。）付近に設置された消波ブロックに衝突した。</p> <p>本船は、衝突の衝撃で目を覚ました船長が自力で帰港しようと機関を後進として消波ブロックから離れたが、浸水が激しく、船長は自力航行を断念し、来援した僚船に全員が救助された。船長は、顔面打撲及び右手首に裂傷を負った。</p> <p>本船は、沈没後にクレーン台船により引き揚げられたが、のち廃船処理された。</p>

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 3、視界 普通 海象：波高 約1.5m 根室市に強風及び波浪注意報が発表されていた。</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、本事故発生の日翌日に本船を上架して工事を行う予定があったので、出航時、サメガレイの漁ができれば操業を行い、漁ができなければ根室市幌茂尻漁港へ回航しようと思っていた。</p> <p>船長は、本事故前の2日間は出航しておらず、本事故前日は22時ごろに就寝した。本事故当日は07時ごろ起床して16時ごろ出港しており、睡眠が不足しているとは感じていなかった。</p> <p>本船は、帰航時、西方からの波を受けて航行していた。</p> <p>本船は、ふだん、船長以外の乗組員が船橋当直に就くことはなく、本事故当時、甲板員3人は船員室で休息をとっていた。</p> <p>船長は、操業を終えた際に自宅へ、入港予定の約30分前に花咲港の作業員へそれぞれ電話連絡を行っていた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし 本船は、花咲港南東方沖を同港に向けて自動操舵で帰航中、船長が居眠りに陥ったことから、本件防波堤付近に設置された消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、本船が、花咲港南東方沖を同港に向けて帰航中、船長が居眠りに陥ったため、本件防波堤付近に設置された消波ブロックに衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	